

から、コレージュを中心に“たべものとフランス人”について検討する。(地・女性)

・半世紀前の柳田国男の著書における都市と農村問題に対する提案に新鮮さを感じて、それをまとめて、今日的意義を検討しようとしているのですが……。

(社・柏)

・広島市の公営住宅の実情を戦後から現在までふり返り、公的・直接的住宅政策のあり方、問題点などを掘り下げていきたいと思っています。

(社・行友)

・『平和研究の回顧と展望』平和研究の原点となるべき価値は軍事研究の原点となるべき価値とは異なっていないなければならない。両者のちがいを意識しない平和研究が存在するならば、結局、軍事研究の中でおし流され戦争のための価値として利用されてしまう危険があります。(本文より)(社・恩田)

・数理統計学・多変量解析の中で検定に使われる、ある統計量を扱っています。数値計算も不可能なので、Monte Carlo Simulation を使い、いくつかの近似値を比較し実用できるものを捜しています。

(情・佐藤)

・CONTRACTIONS OF THE BODY WALL OF AN ECHIVROID WORM, URECHIS VNICINCTUS (情・市村)

・地盤災害の発生機構を気象面から探る。

(環・谷本)

・「地方の時代//流域は自分たちのもの」——都市化の波が流域の奥へ奥へと進行するにつれて、水もよごれを増して来た。流域開発、これでいいのか?

(環・東)

・酵素 (cytochrome P450 sec.) 入りの洗剤の研究。

まあ、実験とはうまく行かんもんですな。

(環・原頭)

・テーマ「婦人労働法制の動向と問題点」

動機：戦後、女とくつ下は強くなった、と言われるが、本当にそうだろうか、という母の言葉。

結論：卒論を御参照ください。(社・安藤)

・現状分析を正しく行ない展望することが大切である。

(社・仮屋)

・瀬戸内海に面する香川県坂出市沖の「番の州」が何故埋立てられたか、機動隊の県議会・市議会導入2件の住民訴訟をふりきって誘致された番の州立地企業の影響と効果をみる。

(社・佐藤)

・本論と注が、同じ枚数です。(社・トクメイ)

・fd バクテリオファージによってGene 5 protein を得、これを精製してCDスペクトルによっていろいろな条件下での立体構造の変化を考察しました。

(環・磯田)

・「森林生態系における物質循環」アカマツ林における炭素の循環について化学的手法を用いて生態学的に考察する。

(情・山本)

・自信あります。

(環・佐藤)

・大学院の試験後にstartしたので最後の追い込みが大変だった。土壌の物理性と植生が対応しないかといういろいろやったが、深さ120 cmの穴掘りが一番きつかった。

(環・松尾)

・人はなぜヘソを曲げるか。

(情・久野)

・「パレスチナ人の基本的人権に関する一考察」

第一部：パレスチナ人の基本的人権侵害の実態

第二部： “ 回復への道

(社・土井)

その2

「私の学部観」

・総合科学部=雑学学部。(社・安藤)

・他の学部にくらべてまとまりがない。

(環・大橋)

・未だその実体掴めず。(環・塚内)

・確かに正体がかみにくいがある。様々な科目が開設されているのでおもしろい。自分の専門をいろいろな方面(分野)から選択できる。

(環・大藤)

・文系・理系にわたって幅広く人間が集まっている

せいか、ユニークな学部だった。おかげで四年間、退屈する暇もなく楽しくすぎて行った。友人に、教官にもとてもめぐまれていたと思う。将来性のある学部だから、これから先が楽しみだ。

(地・女性)

・非常にユニークでおもしろい学部である。

(環・宇都宮)

・とにかくユニークな学部である。

理想と現実のギャップ、たてまえと本音…いろいろ

ろな不満な点もあるけれど、“これから”という姿勢に期待したい。

「総合科学」という概念の統一は未だなされていないけれど程度の差こそあれ、教官・学生のそれぞれが「それぞれの総合科学」を実践しようとしている。
(環・高岡)

• 3年までは遊ぶこともできるし、なんでもできる。必修の単位が多い。
(環・松尾)

• 総合科学部は最低一年間自分の興味は何かを捜せる所なので、自分の適性に合ったものを選択できる幅を持っています。選択の時期には大いに迷っても良いと思いますが、一旦自分の専攻を決定したら、他の分野には目もくれずその道の specialist になる努力が必要だし、私はそう努力すべきだと思います。
(情・佐藤)

• 大学の4年間をふり返ってみて、一番、答えに困る問いは、「総合科学部は、何をする学部ですか」というものだった。この問いを受けるたびに、自分でも、総合科学部とは、一体どんな学部なのか、はっきりつかめていないことを感じた。

総合科学部は、いわゆる「専門バカ」の現状を改め、広い視野をもつ人格を育てる為に、従来の学問の枠を取り払って、全く新しい学問体系をつくりだすということを目指している。しかし実際は、専門バカにはならないが、すべてのことが中途半端で、なにも身につけていないということが多いのではないかと私自身にしても、大学で何を学んだかが自分の中でぼんやりとしていて、はがゆいような気がする。 (もちろんこれは自分が悪いのであるが……。)

いくら総合科学部といっても、何もかもと欲張っては、結局は何もできないのではないだろうか。自分が、この学部に入って何がやりたいのかが、はっきりしていなければ、あまりにも何でもやれるという自由が大きいために、かえってその自由におしつぶされてしまう。また、そういう人が多くなればなるほど、総合科学部は、「単位のとりやすい学部、特別に勉強しなくても卒業できる学部」に落ちいてしまうのではないかと思う。

(地・椎木)

• やりたいことがあれば何でもできる。やりたいことがなければ、そのまま。
(社・佐藤)

• 何をやってよいかまだわからないので、まず入学し、一年生の間に何をやるかと考えながらやろうという学生が多いが、そのような学生は、結局

何も見せぬままに卒業してゆく。同時に、入学前から、自分の卒論のテーマを決めている程の問題意識を持ってやってゆく学生もいることは事実である。
(情・市村)

• 総合科学部は自由で素晴らしいんだと常に夢をたくしてきましたが、問題は主体である私(学生)の実際のかかわり方なんですよ。(社・柏)

• 総科は最初、学問間の fusion を狙ったにもかかわらず、学生の方が confusion を起こして、専門分野以外を refuse するようになってる。
(環・原頭)

• 専門の領域にとらわれずに広く総合的な研究をと言うのはすばらしい理想であって、現実には、大学4年間ではなかなかそこまで無理だと思っています。自分の専門、background となるものがしっかりとしていて、その上で初めて総合的な研究へ向かう態勢を持てるものなのに、学生側では、あまりに漠然とした広い範囲の中で教養的知識をかき集めるばかりになっていると感じます。選択の範囲が広く開かれている点はすばらしいと思いますが、将来の専門へ向けての細かい具体的アドバイスに欠けているため、学生にもはっきりと理解されていないという状態なのではないでしょうか。
(情・磯田)

• やはり学問の理想からゆけば、総合科学部の理念はすばらしいと思うが、現実には特殊化された領域に専念しなければアカデミックな創造は難しいのではないだろうか。広い視野と深い研究はなかなか両立し難いものなのであろう。ちらし寿しの具は米という媒体を通じて一つの料理に成り得ているのであるから、いたづらにつまみ食いに終始することなく、自分なりの視点を早く確立する事が必要不可欠ではないだろうか。又、学生々活がその後の社会人としての自分を養うものであるとするならばそれなりの勉強も必要だと思います。

(社・行友)

• 「努力の要あり、さもなければ、他学部にとり残されるぞ」——学部であり学科である「総合科学部」は従来の大学にはない、画期的な発想から生まれたはずであった。私は第3期の入学生であり、4回目の卒業生であります。5年間、総合科学部を見てきたわけではありますが、はっきりいってあまり変わっていないと思う。一部の先生方の中には「総合科学(環境科学)は君達学生が作り上げるものだ。」という人もいるのには、びっくりし

た。 (環・東)

- 何でもやれそうで、実は何もやってくれない。あとは、自分でやるしかないんじゃないですか。

(情・久野)

- ネクシャリストを養成するのか。ジェネラリストを養成するのか。 (社・トクメイ)
- 世に言われる様に中途半端な学部だとは思わない。それではなぜそう言われるか。それは学生の姿勢がはっきりせず努力を怠っている点が大きいのではないのでしょうか。 (情・藤井)

- 他学部とちがって、学問の領域を越えて幅広く学べるというのが最大の利点である。1～2年の間は幅広く学んで柔軟性をつけると同時に自分の進む方向を決め、3～4年では今まで学んだことを生かして専門に入ったらいと思う。総合科学部は、うまく利用したら、すごく良い学部だと思います。 (情・岩田)

- 同じようなアンケートが幾度となくあり、その度ごとに同じようなことを書いたと思う。総合科学部の目的ともいうべき学際的、総合的研究については大いに良しとするが、実際にはまだ全コースが有機的に結びついているとは言いがたい。一学科に統合されているといっても現実にはコースがあってそれぞれのコースが学科となっていると思う。 (環・山本)

- いろんな人が集まってるという感じ。一年の時は、横のつながりが固く縦のつながりはあまりなかったけれど、2・3年とコースに分かれてから、あまり交流がなくなったみたいな気がする。自分の研究室がないというのが寂しい。(地・三戸)

- 2年以後、各コース・群に分かれてしまうくらいがあり、コース間、あるいは群と群とのつながりが不足している。しかし、アメリカ研究の場合、文学・歴史・政治経済・社会文化・文化人類学を専門にしておられる先生方がいるといったように学生側には、ある

程度、何でも学べる仕組みにはなっているように思う。 (地・村松)

- 講座が多系化しているとはいえ、自分の志向が割と自由に満たされたと思います。これは、まだまだ至らないまでも学問に対する興味を前進できるという点で、非常に満足できることだと思います。

(社・恩田)

- 環境科学コースⅣ群地学標本室はよいところです。砂防研もよいところです。 (環・佐藤)

- 現在の地球には、さまざまな問題が山積みされている。エネルギー問題・食糧問題・人口問題・資源問題、さらには土壌や海水・大気汚染が進みつつあり、公害の問題もある。これらの問題を解決できるのは、総合科学部しかないのである。なぜなら、このような問題をかかえた現代社会の期待に答えるために誕生した学部が総合科学部だからである。総合科学部は、人類の夢と希望をになって未来に向かって大きくはばたいたいのである。

(環・今出)

- すばらしい理念を持っていると思う。今後の可能性がある。 (社・仮屋)

- 底辺が広く選択の範囲が広いのはたしかに有意義だが、専門に入り集中して研究したい事項がある場合、設備不足を感じる。(他学部がどうであるか一切わからないからあまり大きなことは言えない。) (環・梶谷)

- 非常に多種多様な先生方が集まって、その意見交換によって発展してゆく学部。他の学部の実情との比較はよくわからないが、これからみんな、築き上げてゆく学部であることはまちがいない。

(環・谷本)

- ユニークな人間・ポジティブな人間の集った所。何かあるんじゃないかという奮意気というのは、とても大切だと思う。 (社・佐々木)

- 自分あっての学部。学部のイメージは自分が作り出す気力で。 (社・土井)

その3

「講義に対する意見」

- 総合科学部の講義であると意識させられるものが少ない。
- 大講義室や、05教室、04教室でやるような講義では、学生側の手抜きがしやすいのでやめた方がよ

- い。だいいち後ろの方では見えないし聞こえない。
- 一般の必修科目をなくせ。せめて“推薦科目”という名にしる。一年時の単位制限をなくせ。学生にもっと自由を。

- (特に理科系について)もっと専門を鍛えて、実力をつけさせるべきだ。
- 講義は知識の切り売りであって欲しくない。知識のみを押しつける講義はおもしろくもなんともない。もっと教官の人間性、科学に対する取りくみ方、ある種の哲学的な面を学生に見せつけて、ぐいぐいと学生をひきつけて欲しい。
- 自分しだいで有意義にもその逆にもなる。
- 総合科学部らしくいろいろな講義が開設されているので、自分の好みに応じて聴講できる。
- 大カリキュラム制を温存しつつ社会文化コースでは、もう少し体系的な体制が必要ではないでしょうか。
- 本当なら講義はあくまで、参照にしたり、手助けとなるものだけど、現実には単位の関係上、単位に追われて講義を聞くだけになった事がほとんどだった。
- 量子化学を通年で開講すべきだと思う。
- 私は講義とは参加する側のその題目に対する意識のレベルによって価値が決まると思います。
- 社会文化コースの講義も、社会科教科教育のほうの指導にそって構成されれば、学生の私にはたいへんわかりやすかったのではないかと、思う。
- 専門に入ってからの少人数の講義はとてもよかった。
- 物理の授業は少人数だったのでよかった。
- 要するに学生が自発的に勉強しないと意味がないようだ。
- 単位をとったというかとらせてもらった感じ。有りがとうございました。
- 総合科目について：各先生の短編授業となっているので、各々の先生がよく話し合った上でもっとテーマをしぼったつながりのあるものにしてほしい。
- 講義間のつながりを全く感じない。
- 朝が早すぎる。
- 講義は、あくまで導入ですから、その中から興味あるものを見つけ自分でその勉強すべきであると思う。だから興味ある講義は必ず出席すること。
- Winter Timeを採用してほしい。

その4

「大学生活をふり返って」

- 4年間大学生活を送ることができて本当によかった。いろいろ新しい経験もできたし、親しい友もいる。少し安易に生活しすぎたかなという気もしないことはないが……。 (地・椎木)
- 私の場合、4年間のうち、1・2年、3・4年と分かれているような気がする。1・2年のうちは、とにかく無我夢中で、クラブ一辺倒だったし、3・4年はようやく学科に本腰を入れ、卒論へ向かってという感じだった。 (地・三戸)
- 自分のやりたいことを中心にした大学生活であった。ただ一総合科学部生として、もっと積極的に企画、参加していきたかった。 (地・村松)
- 専門に入ると、一つ一つの講義の受講者が極端に減って大変だった。語学関係の講義を2人で受けたことも……考えてみればかなり遊んだけれど結構、勉強もさせられた。おかげで教官とも個人的に親しくなれたし……。 (地・女性)
- やりたい事をやるだけできて、おもしろい人に沢山出会えて、おもしろかった。 (社・佐々木)
- 後悔ばかりが先にたちます。「蓄積する」ということばの重みを感じています。 (社・柏)
- 学問に専念したわけでもなく、サークル活動に日々うちこんだわけでもなく、今思い返されるのは、感性豊かなこの時期にめぐり会った同世代の顔でありましょうか。 (社・行友)
- 無駄に過ごしたとは思っていません。(社・恩田)
- 一年キョロキョロ、二年フラフラ、三年ヨロヨロ四年オロオロ、もう遅い。 (情・市村)
- 勉強とスポーツで明け暮れた毎日でした。 (情・佐藤)
- 多くの友と知り合って語らった。有意義である。勉強はあまりしなかった。でも卒論では苦しんだ。また有意義である。 (環・梶谷)
- 短かった。後悔することも多いけど、要は結果よりも経過！半ば満足。 (環・高岡)
- 入学して卒業するまでの4年間は、あっという間だった。目標をもってやれたので充実できた。ただ勉強不足は切に感じる。 (環・大藤)
- いっしょうけんめいに何かをさがし続けて来たつもりであるが、結局さがし物がみつからなかった。

(環・東)

・最も自由な時間が多かった。やりたい事は思いついた順にやった。しかし、金銭面に制限されて、スケールが小さくなったことが残念である。

(環・谷本)

・孤独と敗北感一色、広島は遠すぎた。

(環・原頭)

・私は、一年の一時期にある同好会に所属していただけなので、サークル活動については、よくわからない。

(地・椎木)

・サークルは、前述のように、私の大学生活の中で大きな比重を占めたものだった。人間関係においても、学科よりも、むしろ、クラブの方が中心だったように思う。クラブに求めるものは、個人によって違うと思うが、自分を広げる意味においても、参加した方がいいと思う。

(地・三戸)

・是非参加すべきであると思う。

理由として1)学部内だけでなく幅広く活動していくことが出来る。2)自分のやりたいことをやっていく上で助けになる。3)幅広い人間関係を養っていくことが出来、社会勉強の場を与えてくれる。人をみる目を養わせてくれる。

ただ主体的に関わっていく態度をもって参加していくことが大切だと思う。

(地・村松)

・後半は幽霊部員に近かったけれど、それでも最後まで頑張った。4年の大学祭にも作品を出したし。総科以外に多くの友人を得ることも出来たし、サークル活動は、やはり大学生活の楽しみの一つだった。

(地・女性)

・大学生活の中で、結局一本の筋をとおせたのはサークル活動だったような気がします。1・2年で導かれながら基礎を積み、3年では指導の立場にたち、4年は隠居のさびしさも味わい……。(社・柏)

・沢山の種類のサークルにかわってみて、今でも、もっと、かかわりたいサークルもある。続けていけなかった事は、とても残念。仲間は、何をすることも、大切だし、既成のサークルだけでなく、これからも自然にサークルをつくったり、加わってゆけたら、ステキだと思う。

(地・佐々木)

・団体、組織、機構にもいろいろあるが、それぞれの中で、自分を生かさせた成長できたと思う。逆に言えば、自分を粗末にしないという首尾一貫性が最も大切だったと自分では思う。これは友人、学部、体育会等、どの関係でもいえると思う。(社・恩田)

・3年の段階でやめたけれど、大学生は、一度は何

かのサークルで活動すべきだと思う。サークルに入らなくとも、学業以外の事で、何かやってないと、視野のせまい人間ができあがると思う。(情・市村)

・財産ができた。卒業して数年は心の泉になるのではないかな。もちろん部活でできた友は一生の友となるだろう。またそうしようと思う。(環・梶谷)

・変った経験だった。現実の厳しさ、1つの出来事が周囲にひきおこす波紋の大きさ……様々な立場からの意見、議論、自分の甘さ、視野の狭さ…etc

考えさせられることも多々あった。我々のときには、余りふるわなかったけれど、いずれはその名の通り『飛翔』して行って欲しいと思う。(環・高岡)

・弓道部に属していたが、授業の合間とか夜遅くまで練習していたりして、没頭していた。がその間、いろいろな仲間と知り合い、語り合ってきた人間の触れ合いを感じることができた。また、集団バイトなど多くのことを経験した。これらは将来プラスになると思う。(環・大藤)

・3年間ギター部に所属していましたが、学部の人たちとはちがった人間関係があって非常におもしろく、人生経験にもなったと思います。ギターの方の腕前には、疑問が残りますが……。(環・坪倉)

・高校の時からやってきた陸上競技を大学でも続けて行った。記録が延びる喜び(自己の向上心)と、仲間の増えるたのしみ。これは、何らかのサークルに加入することによって、得られるものだと思う。

(環・東)

・大きな(人数の多い)サークルに入るのもよいが、同じ興味を持つものが集まって行なう活動の方が自分には役に立つと思った。(環・谷本)

・よくわからん

(環・原頭)

・私なりに、社会文化コースの授業を利用できたと思う。(社・安藤)

・1~3年は講義、講義の毎日でした。4年は甘えの一年でした。(情・藤井)

・よく遊んだ

(環・植田)

・振り返ってなんかいられない、すべきことが多すぎる。(環・佐藤)

・自分のやりたい様にやったが、やりたい事の半分もやってない。(情・久野)

・特に専門に関して、勉強が足りなかったと痛感している。(情・磯田)

・最後の学生時代だから何にでも積極的にアタックするよう心がけた。いくつかやったバイトからも、大いに学ぶところがあった。(情・岩田)